

## コロナ直前 海外旅行の記録

確か大学1年生の10月ごろだったと思います。駒場の食堂近くのテーブルで大学の友人Nと食事をしているときにふと、旅行の話になった。そこでうまく意気投合し、翌年2月に海外へ行こうと決まった。二人で旅行代理店に行きフリーのツアーに申し込み、旅行までに何度か会って、どの日にどこへいくか、割と詳細に詰めた。

そして2020年2月。国内で新型コロナウイルスの感染者が確認されて一ヶ月、今ほどの惨事になるとはあまり想像していなかった頃。今となってはギリギリのタイミングで旅行を決定した。ドーハで乗り継ぎ、日本から半日以上かけてヒースロー国際空港へ。自分の初めての海外旅行がまさかユーラシア大陸を越えてしまうなんて思ってもいなかった。

1カ国目、イギリス。日本であまりみられない煉瓦造りの家々、チップの習慣、中学の時の教科書に出てきた、ロンドン地下鉄…全てが新鮮だった。大英博物館やナショナルギャラリーといった施設は入場料ゼロ、寄付制だ。写真も撮れる。しかも館内にはスケッチブックを持って模写に勤しむ人の姿がちらほら。世界中の名画や史料を気軽に楽しめるイギリスの人々が少し羨ましくなった。もっとも「イギリスの料理はまずい」といった言説、現地へ行った身から言わせていただくと、どうも本当だ。

2カ国目、フランス。ユーロスターでドーバー海峡を越えてパリへ。こっちは料理は美味しい。ルーヴルやオルセーでは、美術の教科書に載っている絵画の数々をすぐ近くで見ることができた。母に「パリから手紙を送ってくれ」と頼まれたときはちょっと微笑ましくなった。サント・シャペルのステンドグラスは、言葉で表せないほど圧巻だった。

今では1日に何万人もコロナ感染者が出ているこの二国。あと少し日程が遅かったらキャンセルだっただろうし、状況次第ではもう行けないかもしれない。だからこそあの時決行した旅行が、良き思い出として心に強く残っている。日本での早いコロナ禍の収束と、いつかもう一度海外へ出られる日々が戻ってくることを祈っています。